

お年寄りは如来さ
ま



私がこのうちに嫁いでくる時、里の祖父が言ってくれた言葉が、二十年も過ぎた今になってつくづく思い出されます。

「嫁にいったら、日々いろいろ、つらいこと辛抱できることがあるはずや。それでもそれを顔に出したり、人に言うたりしたらあかん。そんなときはナ、お仏壇のところに飛んで行け。わしが親から聞いたのでは、お仏壇ちう所は、煩惱の捨て所、ごみ処理場やそくな。腹立ち怒り憎しみのところがおこったら、なにをおいてもお仏壇の如来さんに聞いてもらえ。如来さんはわしらの心の掃除のために、わざわざが家まで出掛けてくださっているのやから。」

おじいちゃんが言つたとおりであります。

昨日のよる、うちにはだれもいなかつたとき、姑の寝ている隣の部屋の仏壇で、短いおつとめを一人でひそかにしてしまつたら、動けるはずのない寝たきり痴呆の母が、私のうしろにはいよつて来て、こんなことを言つて来ます。

「寺のホンコさんやろ。参つて来。わしあしたはおとなしく留守するで、ホンコさんには参つて来。」

わたしは本当に、雷にうたれたような気がしました。

里のおじいちゃんといい、こここの母といい、お年寄りは如来さんやと思ひました。

腹が立ち憎しみが起つたわたしを救うために、お仏壇にお参りせえ、ホンコさんにお参りせえと、働き通しに働いてくださつていたんや。

それで、そのお陰で、こうして今日も報恩講におまいりさせてもらえたのです。不思議なことです。

先だって、「門徒式章」です。

そこがお参りしてみてびっくり。

「ご香資」と(その中)。聖典。数珠。

そして「門徒式章」です。

これがお参りしてみてびっくり。

親族・遺族・会葬者のなかに、「式章」かけてお参りのかたは殆ど見えません。たつたお一人、喪服に式章つけたご婦人がおられ、ほつとすると同時に“きょうだい”とでも言つたか、強い親しみを覚えました。

十一月には寺々で報恩講さんがお勤まりでした。つとめて聴聞させていただきましたが、ここでも「門徒式章」つけてのお参りが少ないので驚きました。総代さんか役員さんぐらゐではなかつたかと思います。

あらためて「門徒式章」とはと考えさせられました。

1、どんなお参りにも三点セット

①お念珠 ②聖典 ③式章

2、お念珠は、ほとけさまを「手づかみ」にしてはいけない。いつもお呼び声の「輪」を通してお会いしよう。

3、「門徒式章」は門徒の「お袈裟」。袈裟はもともと何枚もの布片を縫い合わせた粗末な修行者の下着。五条とか七条とかスジが通つて全体で田園のよう。田園に水を引くように、お釈迦様の教えを大切に聞かせてもらおうというところからできあがつています。

「わたしはお念佛を聞く淨土真宗の門徒です」という誇りをもつてお参りしたいものです。

(お寺にあります。おたずねください)

門徒式章 をつけよう

仏事務員
からのおねがい



前のカールが高齢で死にました。子供会に来てくれた子どもさんからや大人のご門徒から、沢山のおくやみを戴きました。ほんとうに有り難うございました。亡くなつたカールと共に心からお札を申し上げます。

他所から帰つて来ても、迎えてくれるカールがないので寂しい悲しい思いをしていましたが、カールが死んだあとすぐに新しい家族が増えてくれました。ひとつはこの猫。どちらか迷い込んで来て、今ではもう大威張りで家中のしあわいでいます。かわいがり過ぎてすこし肥満気味です。トラと呼ばれています。

もう一つはこのとおりの子犬。生まれて四〇日目かに来ましたが、あはれんばであまんば。女の子ですので大事に奥庭でかつてしています。お散歩は自動車で遠くまで出掛けます。名前はやっぱりカールです。

来年の子供会にあらためてごあいさつしますが。どうぞまた可愛がつてやつてください。

おくやみのお札かたがたご挨拶致します。

